

—平成30年 霜月（11月）のことば—



うぬ おくやま けよこ あさ ゆめみ 鬼
『有為の奥山 今日越えて 浅き夢見じ 酔ひもせず』

先月に続いて「羅刹と雪山童子の物語」を見て参ります。

鬼の羅刹は仏の悟りの境地を歌った詩の後半部分を唱え始めました。『生滅滅已しょうめつめつち寂滅為楽じゃくめついらく（生じたものは必ず滅するという真理を受け容れたなら、生滅に執着することもない。波立つことのないその静まりかえった境地こそが、生まれながらの本来の安らぎであった。）』すべてを聴き終えて真の安楽を得た雪山童子（お釈迦様の前世）は、急いで木や石にこの詩を刻み付けました。そして約束通り、自らの身体を鬼に与えるために高い崖の上へ登り、その身を投げたのです。身体が地に叩き付けられる瞬間、鬼は元の帝釈天の姿に戻り、童子を救い受けて地に降り立ちます。帝釈天は多くの神々と共に雪山童子を礼拝し、童子を試したことを謝り、神々の世界へと帰って行きました。

さて、この物語に登場する涅槃経ねはんきょうの中の無常偈むじょうげをもとに『いろは歌』が作られたと先月書きましたが、あらためていろは歌に解釈をつけてみましょう。

『匂いたつ花もやがて散ってしまう。この世に不変でないものがあるだろうか。その現実がそのまま真実と気づくことができたなら、もうはかない夢をみたり、酔いしれることも要りはしない』思い通りにならないこの世を、思い通りにしようとするから苦しみとなる。ありのままに今・ここを生ききれば、この世は実に素晴らしく味わい深い。これが『いろは歌』の伝えたいことだったのです。

…方広寺派管長さまの提唱と坐禅会のご案内…

正光寺でも副住職が毎月第一土曜日の夜7時からと、翌日の日曜日の朝7時からの2回坐禅会を行なっていますが、方広寺主催の坐禅会もお薦めします。特に今年4月に方広寺派の管長に就任された安永祖堂老師の提唱は好評で、若い和尚さんたちを始め、多くの老若男女が毎回集っています。提唱とは中国の禅修行の逸話や、禅宗の祖師方の語録を解説し、修行者の禅定力の向上の助けとされるものですが、今では一般在家の方々の日常を離れた非日常的な禅の世界を学べるとあって提唱を聴講される方がとても多くなりました。下記の通り毎月開催されますので、正光寺の坐禅会ともども是非ご参加頂きますようご案内致します。



〔安永祖堂方広寺派管長〕

開催日：毎月第三土曜日

内 容：午後5時～6時…無門関提唱

午後6時～7時…坐禅

会 場：半僧坊浜松別院「正福寺」

浜松市中区高町213-1

参加費：無料

その他：坐禅が組み易い服装でご参加下さい。

日程確認などは正光寺へ ☎053-434-0800

